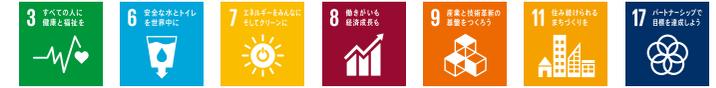


生活・社会基盤の充実



三井物産は、世界各国・地域の成長と発展に欠かせない生活・社会基盤の整備、特に電力、水処理、上下水道、物流、鉄道、通信等における事業を通じ、人々のより良い豊かな暮らしづくりに貢献しています。

電力・再生可能エネルギー分野では、発電事業やガス配給事業を進める一方、温室効果ガスの排出量削減も重要な課題と認識し、太陽光・太陽熱発電、風力発電プロジェクトや地産地消バイオマス関連プラント等の環境事業も強化しています。

人口増加や生活水準の向上、ライフスタイルの変化等を背景にした利便性や安全性に対するニーズに対しては、上下水道、廃水処理施設の開発・運営、シェアリングエコノミーへの移行の促進を行うほか、港湾事業や空港事業を中心とする物流・産業施設、スマートシティ開発等、変化に対応した都市開発事業を展開しています。

モビリティ分野のうち、船舶については、船舶保有・運航事業、LNG船事業に注力しながら、環境規制の強化や海上荷動きの成長・変化に対応しています。陸上物流の大動脈となる鉄道については、車両や関連設備の輸出に加え、本邦制度金融等のスキームを利用した鉄道輸送インフラ整備案件を展開しており、鉄道車両リース事業や一般貨物事業、旅客輸送事業にも取り組んでいます。また、インフラづくりでは、一般建設機械の操作補助を含む、工事の正確性・生産性・安全性向上を実現するだけでなく、比較的経験の浅い建機オペレーターでも精緻な施工が可能となる情報化施工にも取り組んでいます。

さらに新興国を中心とする高速通信、電子決済といった通信・サービスプラットフォーム事業等にICTを活用することで、生活・社会基盤の充実を目指すとともに、新社会システム構築に向け、医療・ヘルスケア、農業、エネルギーマネジメント等の分野での新事業の創出にも取り組んでいます。

このほか、事業戦略との関連性および社会貢献の両面から、地域コミュニティへの貢献も行っており、地域活性化に向けた取り組みに加え、投資や開発、地域の雇用創出のためのコミュニティ投資を推進しています。

非電化地域への電力供給を通じ、人々の生活向上に貢献

活動

SDGs: 7.1、7.2、9.1、9.4

当社は、電力網の構築や自家発電環境の整備等を通じ、非電化地域の住民の生活改善に取り組んでいます。

インド国内では、主に再生可能エネルギーを用いて電力の安定供給を行うミニグリッド事業のリーディングカンパニー、OMC Power Private Ltd. (以下、OMC Power) への出資・参画を通じ、農村電化事業を推進しています。従来、インド国内の非電化地域では、ディーゼルやケロシン等の化石燃料をエネルギーとして消費していましたが、OMC Powerは、太陽光発電、蓄電池等を組み合わせることで、より安定的で環境への影響も少ない電力を低価格で提供、地域経済の発展だけでなくCO₂排出削減にも貢献しています。中期的には1,000か所の小型太陽光発電所(総発電量50MW程度)を運営し、電気が通っていない地域に住む100万人以上の人々に電力を供給することでインドの成長にも貢献していきます。

また、サハラ以南のアフリカでは、住宅や小規模商店の屋根上にソーラーパネルを設置し、太陽光発電により照明、携帯充電器、家電(ラジオ、TV)等を稼働させるSolar Home System (以下、SHS)事業を展開する、M-KOPA Holdings Ltd. (以下、M-KOPA) への出資・参画を通じ、同地域へ電力供給を行っています。同地域では、送配電網整備の遅れによっていまだに6億人以上が照明や炊事に灯油を使用していましたが、SHSによって化石燃料である灯油の使用量を削減、環境負荷の低減にも貢献しています。アフリカでは今後も急速な経済成長を背景とした生活レベルの向上や生活様式の変化により電力需要の大幅な需要が見込まれることから、M-KOPAの提供するサービスの強化・拡大を加速することで、アフリカの人々の便利で快適な暮らしを支援していきます。



インド国内の非電化地域に設置されている小型太陽光発電



M-KOPAのSHSキット

長期にわたって安心して働くことができる職場づくりへの貢献

活動

SDGs: 8.8、17.16

当社関連会社の株式会社ATOOUN（以下、ATOOUN）は、年齢や性別によって生じる筋力・持久力等の壁（パワーバリア）を解消し、誰もが思い通りに働ける「パワーバリアレス社会」の実現を企業理念として掲げ、着用型ロボット（パワードウェア）の開発、普及に努めています。2019年2月には、業務の革新に協業して取り組むことを目的に、株式会社JALグランドサービス（以下、JGS）の空港グランドハンドリング業務にATOOUN製パワードウェア「ATOOUN MODEL Y」が20着導入されました。導入された「ATOOUN MODEL Y」は、腰をサポートする着用型ロボットで、主に顧客の手荷物を取り扱うソーティング場でのベルトコンベアからコンテナへの積み込み作業や、^{うわや}上屋と呼ばれる貨物倉庫内での貨物取り扱い時に活用されており、実際に着用した作業員から高い評価を受けています。ATOOUNとJGSは、さらなる作業負担の軽減を目指し、「腕の補助機能」等を備えた次世代モデルの開発にも協業して取り組むことで、誰もが長期にわたって安心して働くことができる職場づくりの実現を目指していきます。



空港グランドハンドリング業務に導入された「ATOOUN MODEL Y」

インドの子どもたちの水へのアクセス改善と野外排泄の撲滅に貢献

活動

SDGs: 6.1、6.2

当社は、TOTO株式会社との合併会社TOTO India Industries Private Ltd.（以下、TOTO India）に出資・参画し、TOTO Indiaグジャラート工場で衛生陶器の製造を行っています。TOTO Indiaでは、同工場を拠点とした地域貢献として、TOTO本社の水環境基金を活用したプロジェクト「2016年から4年間インドのNGO、Deepakを支援するWater Sustainability Project」のサポート業務に携わっています。同プロジェクトでは、農業池の新設・改修を柱とした水利用の向上と植栽のほか、飢餓や栄養失調から子どもたちを守るために建設されているインド・グジャラート州の医療施設に飲料水タンクや幼児用トイレを設置しており、結果として子どもたちの水へのアクセス改善や、野外での排泄をなくすことに貢献しています。



医療施設の開所式でテープカットをするTOTO Indiaの淡島副社長（当社より出向）。右は同施設に設置した幼児用トイレ